



Hm2助成支援団体のご紹介

やさしさのまちづくり屋台村

みしま まりこ
事務局 三島 満里子さん

広島市安佐北区可部地区内で、まちづくり、福祉、介護、環境、教育、子育て、若者支援、安全等に関わる非営利活動団体、地域貢献活動団体の交流を目的に、平成23年7月に結成したのが「やさしさのまちづくり屋台村」です。その原点となったのは、可部地区で活動する市民グループ「可部カラスの会」が平成19年に、地域づくり、ものづくり、学びの場をテーマに地域を盛り上げる目的で開いた「屋台村イベント」でした。

町に誇りを持って、連携・意識・仕組みづくりを

「屋台村イベントでは、可部地区の複数の団体が一同に介して、可部の町を元気にしたい、というテーマで一致団結。活動内容は異なるものの、まちづくりという共通の認識を持つことで、関わる人たちが励まされ、みんなで協力することが大きなパワーを生むことが分かり勇気も貰いました。その後、各団体が一同に介する度に、結束するための方策について協議を重ね、平成23年7月に



▲屋台村イベントの様子

各団体を束ねる組織として立ち上げたのが「やさしさのまちづくり屋台村」です」と事務局の三島満里子さんは語ります。可部地区内16の非営利・地域貢献を担

スタッフの皆さん▶



う団体が参加して会を結成。翌8月にはシンポジウムを開き、10月には各団体によるブース出展、ステージイベント、パレード等を盛り込んだ「屋台村イベント」を開催。以後、2年連続して開催し、平成25年の「屋台村イベント」では、可部の町を各団体が仮装して練り歩くなど地域を巻き込んだ内容となりスケールアップした形で展開しています。

「日頃は、それぞれの団体が独自の領域の課題に取り組んでいますが、どの団体にとっても、まちづくりという観点は欠かせない、という認識を共有しています。可部というひとつの地域で、独自の課題に取り組む幅広い団体が協働し、地域住民の参加も得て行うイベントとして、屋台村イベントは例をみないユニークさがあると思います。可部の町を、日本はもちろん、世界にも誇れる町に成長させていきたいという願いを込めて、私たちは自らをKABE JAPANと呼んで活動をしています」。

今後は、築きあげたネットワークを活かして、連携づくり、共同体の意識づくり、支え合いの仕組みづくり。この3つのづくり=3Dによるネットワーク事業を展開していくことを考えているそうです。「1日だけのイベントに留まらず、継続した活動や共同体意識を作り出し、地域の支え合いを作りだせれば」と三島さんは今後の夢を語ってくれました。

特定非営利活動法人NPO 狩留家

くるかわ のりお
理事長 黒川 章男さん

広島市安佐北区狩留家町の住民が、地域の福祉環境を充実させると同時に、にぎわいのある町にすることを目的に結成したのが「特定非営利活動法人NPO狩留家」です。

「江戸時代、狩留家は三篠川舟運事業の物流センター的役割をはたしていました。さらに水車による油絞事業の寡占化、また当時、狩留家には割庄屋もあり、高宮郡の行政の中心地でもあったため、狩留家は高宮郡では最も栄えた町でした。しかしここ100年近くは産業も経済も衰退して現在は、コンビニエンスストアや宿泊できる福祉施設もない中山間地区になりました。狩留家を広島市の心の潤いを提供する観光地にし、特産品を開発して芸備線沿線の中核地に成長させていくことを夢見てNPO狩留家を結成しました」と理事長を務める黒川章男さんは語ります。

町に残る自然と歴史遺産を再生の起爆剤に

平成24年6月にNPO狩留家を結成。その半年前、狩留家地区社会福祉協議会の会長でもあった黒川さんを中心に行った住民アンケートで、多くの方々から最期まで狩留家で生活し、住み続けたいとの意見が寄せられていました。

そこで、福祉施設を誘致するために、500余坪の土地を提供することにし、10数軒の施設の長の方をお招きして施設誘致の

平成26年3月に完成した水車小屋▶



豊かな自然▶



お願いをしましたが、良いお話にはなりません。最後にお招きした施設の方が「狩留家ももう少しにぎわいのある町にならないと施設の誘致は無理よ」と言われ、にぎわいのあるまちづくり(狩留家の活性化)のために「NPO狩留家」を立ち上げたのです。

まずは、狩留家が江戸時代に油絞りで栄えたことを象徴するシンボルとなる水車小屋を建設しました。都会生活の多くの人たちが「懐かしい昔の風情に親しみと癒しを求めて遊びにやってくる」ことを期待して交流の場を建設中です。

「イベントを開けば、一時的に来訪者は増えますが長続きはしません。私たちは自然に人が流入してくる仕組みを作ることが大切だと考えています。水車小屋は平成25年度は一基ですが、今後も水車小屋を増設して地域を活性化していきます。さらに山、川、渓谷など起伏に富んだ自然豊かな歴史が残っていることを活かしたエコ・ツーリズムなどの展開を進めていきます。狩留家ににぎわいを取り戻すために、豊かな自然と歴史の遺産を活用して、未来に向けた地域再生に取り組んでいます」NPO狩留家の皆さんは、にぎわいを再生することが、福祉のまちづくりに向けた重要な取組だと考えています。「自分たちの町は、自分たち自身で変革させる」と黒川さんは、今後の夢を語ってくれました。

権現峠の自然をまもる会

うえごうち やすゆき
事務局 上垣内 保之さん

古代山陽道が通っていたとされているアストラムライン伴中央駅付近の住民(平木・鳴地区)が、①これまでの歴史と文化を正しく後世に伝承する、②権現峠までの古道整備を維持する事で自然の豊かさを守る、③地域住民が気軽に山登り(散策)する事で健康増進に寄与しまちづくりに貢献していく、この3つの目的を実現するために、平成25年2月に結成したのが「権現峠の自然をまもる会」です。

地元に残る歴史ロマンの価値を高め未来へ伝える

「権現峠は、古代山陽道が敷かれた685年頃から、現在のアストラムライン伴中央駅がある付近に土茂(現在の伴)という駅舎がありました。多くの人はそこに馬を繋いでいたこともあり、現在の山本(祇園)方面へ往来する主要交通路であったといわれています。峠を通る人々は、行商や行き来の安全を祈願して、峠の頂上付近に神石を置いたり拜んだり休んでいたとの記録も残っています。そういった由緒ある安佐南区沼田町伴中央地域の住民の有志が、平成9年11月に、古くなって傷みが激しかった権現神社を新しく立て直しました。それをきっかけに、大茶臼山や武田山方面から権現峠を目指して多くの登山者が訪れるようになり、神社付近でひと休みされる方が増えて

きました。そこで、有志のみなで古道を整備したり、周辺の芝刈り、神社の維持管理をしました。そしてこのような活動を続けるなかで由緒ある歴史文化を後世に伝えなくてはと強い使命感を持った者たちでこの「権現峠の自然をまもる会」を結成しました」と事務局の上垣内保之さんは語ります。

会を結成後、メンバーは定期的に、古道(伴中央歴史古道)の清掃・芝刈りや整備に取り組み、平成25年8月～9月にはアストラムライン伴中央駅から権現峠上段入口までの5カ所に道路案内板と駅前・権現神社に大型案内板(由来説明を含む)2カ所を設置。多くの登山者が権現峠・権現神社を知り、安心・安全に歩ける環境作りに積極的に取り組んでいます。また歴史と自然を守り、郷土への愛着を深めることで、地元に住む人がまちづくりへの夢や期待感を持ち、それが推進力になると考えています。

「会を発足して間もないのですが、先人が残してくれた歴史ロマンを直接感じることでできる場所を、これからも大切に守り伝えていく使命を感じています。今後は、地元の沼田公民館とも連携し、権現峠にまつわる歴史の掘り起しと、会員による勉強会も行いながら、他の地域の世代を超えた人々とも連携して地域力を活かした共同イベントなどにも取り組んでいければ」と上垣内さんは今後の夢を語ってくれました。

スタッフの皆さん▶



アストラムライン伴中央駅に取りつけられた大型案内板▶



寄付のお願い

「ひと・まち広島未来づくりファンドHm2(ふむふむ)」は、市民・企業・行政等が力を合わせて、市民のまちづくり活動を長期にわたり支えていこうという基金です。現在、その基金を取り崩して助成を行っています。私たちの住む広島のまちをよりよくしていくために、できるだけ多くの皆さまからの寄付をお願いします。

振込先 広島銀行広島市役所支店/別段預金 No.3000017

口座名義 公益信託広島市まちづくり活動支援基金寄付金受入口
専用の振込用紙をご使用いただければ、手数料はかかりません(ただし、広島銀行の窓口からの振込に限りです)。広島銀行の振込用紙を使用、または他の金融機関からの振込の場合、手数料は自己負担となります。
※この公益信託への寄付に対して税の減免はございません。
※頂戴したご寄付は、毎月末日締めにて集計し、翌月の5日(休日の場合は翌営業日)に基金へ寄付させていただきます。



基金の愛称「Hm2(ふむふむ)」とは…【ひと(Hito) まち(Machi) 広島(Hiroshima) 未来づくり(Mirai-zukuri) ファンド】の略で、頭文字(HMHM)をとって「ふむふむ」と読みます。「ひと、と」まち、をつなぎ、「広島、の」未来、を創造するファンドで、みんなが「ふむふむ」と納得しながら共感が広がっていくまちづくりをイメージしています。



(財)広島市未来都市創造財団では、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動を支援し、市民、企業、行政の協働によるまちづくりを推進するための仕組みづくりとして、公益信託による基金「ひと・まち広島未来づくりファンドHm2(ふむふむ)」を設けています。

この基金は、豊かでいきいきとした市民社会づくりを目指すため、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動に対する助成事業を行っており、助成先は公開により、学識経験者などで構成する運営委員会が審査・選考を行っています。

平成25年度助成団体や助成額等については、(財)広島市未来都市創造財団ひと・まちネットワーク部のホームページでご覧いただけます。

<http://www.cf.city.hiroshima.jp/hitomachi/>

※(財)広島市未来都市創造財団は平成26年4月1日より公益財団法人広島市文化財団に名称を変更します。

人材バンク 名人宝人 達人

さまざまな分野の達人たちが登録している
まちづくりボランティア人材バンク。地域活動や
まちづくりのお手伝いに、今日も、あなたのまちな
達人たちがおうかがいしています。

一人で悩み苦しむのではなく、
一緒に考えて、終活の道標を示す役割を。

広島終活を考える会
佐々木正則さん



▲商業施設内での無料相談会の様子

高齢者の方に、それぞれ終活の意義を考えて行動し、老後を前向きに過ごしてもらうことを目的に、佐々木正則さんを始め4人の行政書士が集まって平成25年1月に発足したのが「広島

終活を考える会」です。

「平成23年の東日本大震災後、私は心臓病を患い、将来への不安と共に終活の必要性を強く感じました。体調回復後、公民館長を務めていた高校の同級生に会

かけて会を作り、人材バンクに登録しました。その後、広島県行政書士会の田山智徳副会長にもこの会の顧問就任の快諾を得て、活動を始めました」。



▲鎌田智恵子さん(後方左)、芳村香於里さん(後方右)、佐々木正則さん(手前左)、顧問の田山智徳さん(手前右)

会のメンバーは佐々木さんを中心に、4人の行政書士で構成され、広島市内の公民館や集会所で「終活講座」を開催しています。また生活に密着した相談会を開くことで気軽に足を運んでもらえるのではと考え、広島市内数カ所の商業施設内でも定期的に無料相談会を開いています。「会を結成後、終活講座や無料相談会の場所に訪れてくるのは、60〜70歳の方が中心で、その大半が相続や遺言に関する内容



▲公民館での終活講座の様子

です。疑問や不安な点を誰にも相談することができなくて、独りで悩みを抱えて苦しんでいる方が多いです。しかし、最終的に結論を出すのは相談に来られる方本人にしかできません。私たちは真摯に話を聞くことにより、一時的にでも相談者の心の奥底に溜まっているモヤモヤ感を取り払って、笑顔で帰って欲しいと常に願っています。元気な時に大切なことを考えておくことで、前向きでより良い形の解決策が見つかるのではないかと思います」。

東日本大震災以降、家族や人との絆を身近に感じ、心のつながりの大切さが再認識されている今、まちの法律家とも言われる行政書士を務める佐々木さんをはじめ、広島終活を考える会の皆さんは、将来に不安を感じている人たちの気持ちをしっかりと受け止めて、色々な悩みの解決策を見つけてくれる手助けができればと考えています。

ストレスから心身の健康を守る シンプルなセルフケア講座を

NPO法人心の救急箱
三上弘恵さん

近年、さまざまな問題によって起こるストレスに悩んで体調を崩す人が世代を問わず増えている中、メンタルケアの大切さを認知してもらうことを目的に平成23年1月に三上弘恵さんが結成したのが「NPO法人心の救急箱」です。

「私たちは、一人ひとりの心の平安が、家族の絆を深め支え合うコミュニティを築き、平和な社会につながると思っています。そ

「社会的環境が大きく変化している今、不安や緊張、否定的感情、ストレス症状などを抱えている人が増えてきていると思います。そのような人たちに、少しでも心と体の緊張をほぐしてリラックスしてもらい、気持ちがあつと安心できたり、肯定的な感情が増えればと考えています。法人を結成して間もない平成23年3月に起こった東日本

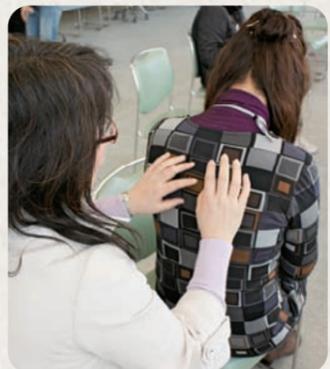


と共に関心なメンタルケア講座や個別カウンセリングも行ってまいります。セルフピリヤ、カウンセリングなどの経験を積んだ人たちが20人が集まって始めた活動。「活動を始めてもう丸3年が過ぎ、4年目に入っていますが、今後も試行錯誤を繰り返しながら時代が求めるものに取り組んでいければと考えています。家庭の心の救急箱として、辛い時など気持ちがほつとすると常備薬のように、誰でも使える心のケアの方法を様々な人々に知ってもらい、日々の生活を安心して送っていただきたい」。



▲タッピングタッチ講座の様子

両手の指先で身体をゆつくり優しくトントンとタッチするだけのシンプルな心の相互ケアです。



▲タッピングタッチの様子

大震災の後は、私たちの活動が少しでも役立つ欲しいと思いい、仙台でボランティア活動の二環として地元

は、私たちの活動が少しでも役立つ欲しいと思いい、仙台でボランティア活動の二環として地元

月日	内容	出演者名
4月26日(土)	探訪・おいしい瀬戸内～food&風土～	小沢 康甫さん
※5月の人材バンク発表会はお休みです。		
6月28日(土)	いつか、もしものための終活講座と無料相談会	広島終活を考える会
7月26日(土)	パステルチョークのメルヘンハガキ作り	宮原 美鈴さん

※内容等変更になる場合があります。

まちづくりボランティア 人材バンク発表会

今回ご紹介している方々は、「まちづくりボランティア人材バンク」に登録されています。

登録者が自らの達人ぶりを披露します。参加は自由ですので、気軽にお立ち寄りください。
日時 毎月第4土曜日午後2時〜4時
場所 南棟1階ロビー
参加費 申込不要



達人からの感想を紹介します

まちづくりボランティア人材バンクでは、「達人」の紹介「コーディネート」をしています。

今回は、依頼された団体のみなさんと過ごした時間について、達人から寄せられた感想を紹介いたします。

みなさんとても歌がお好きなので、とてもいい表情で楽しそうに歌われました。お互いに信頼関係がしっかりとできて暖かい雰囲気だったので、こちらも気持ちよく指導できました。職員さんが歌詞を模造紙に書いて準備してくださっていたので、大変スムーズに進めることができました。【平成25年5月に実施作業所にて合唱指導の達人より】

小学生を持つ保護者を対象に夏休みの食生活についての話をしました。時間的にも乱れがちな生活の中で、やはり規則正しく生活することが健康にも影響をすることを理解してもらいました。話を聞きにきてくださる保護者は、子どもの生活面への取り組みが真剣で、聞いてくださる態度も熱心でした。【平成25年6月に実施公民館主催事業にて食生活指導の達人より】

暑い夏の日であったが、50人くらいの子どもたちが参加してくれてそれぞれに「コマ回しを楽しんでくれたと思います。回せなかった子が回せるようになり、母親にコマを買いに行こうとせがんでいた姿が微笑ましかったです。役員のお母さん方の準備は大変だったろうと思いますが、子どもたちにとっては良い思い出になったと思います。【平成25年8月に実施子ども会の夏の行事にて「コマ回しの達人より】

紹介申込・登録申込などの
お問い合わせは...

まちづくり市民交流プラザ
082(0)545-33911
082(0)545-33838